

域外大学生が域内中学生と共に学び合う地域農業における
コミュニティ型起業家教育モデルの設計と実装
ー鳥取県大山町におけるアクションリサーチー

慶應義塾大学大学院 政策・メディア研究科
修士2年 霧生彩乃

I.背景と目的

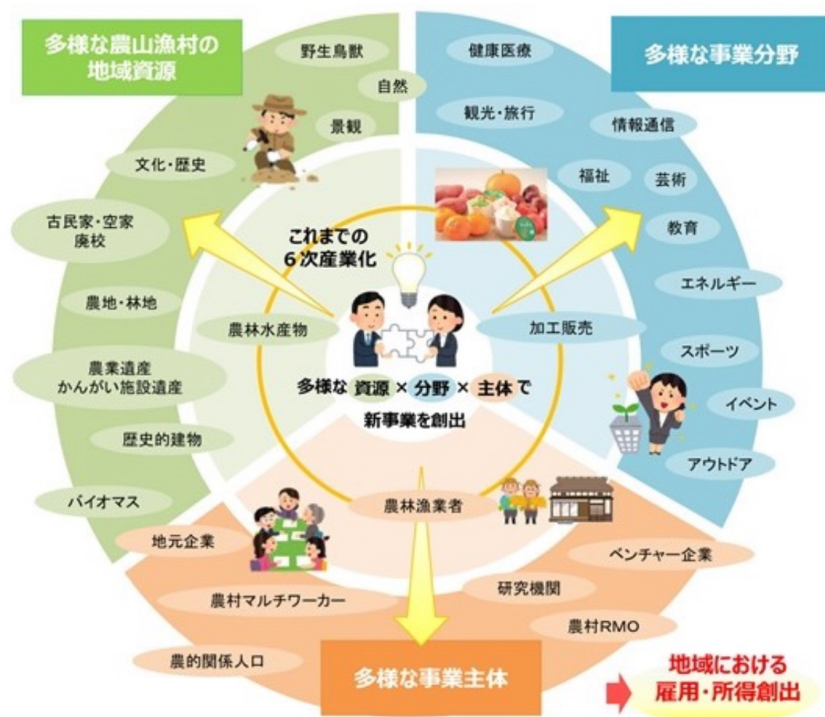
農業における担い手減少と大学・大学院（農学系）の就農率の低さ

課題

- ・農業における担い手減少
- ・大学・大学院（農学系）の就農率の低さ

└─→ 大学在学中に農業キャリアについて考えられていないことが原因と考えられる。

現在の取り組み

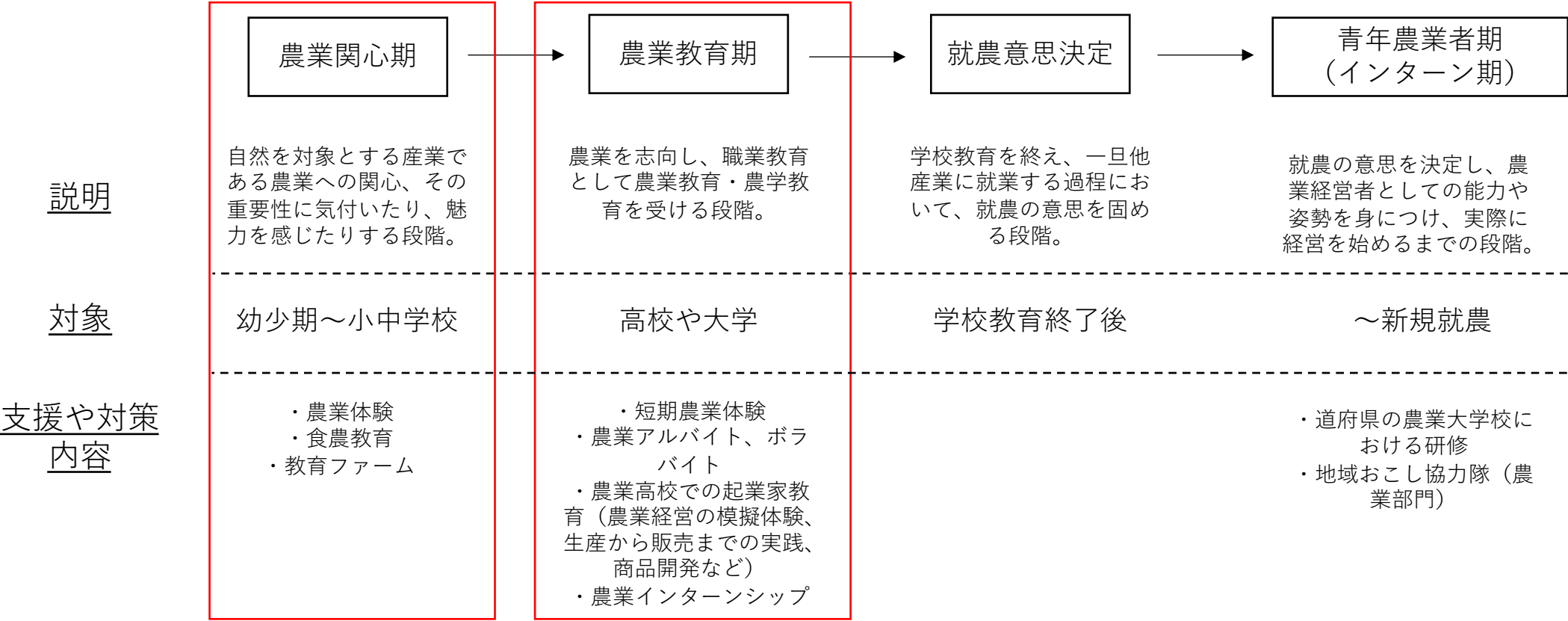


・農業者が農業生産（一次産業）だけでなく、他分野と農業とを掛け合わせた事業を行うことで、収益を安定させていく取り組みが行われている。

・生産だけでなく多様な農業への関わりを含めた農業キャリアについて考える取り組みは少ない。

・大学在学中に、多様な農業への関わりについて、実践を通して考えていく機会が重要であると考えられる。

図1：農山漁発イノベーションの概念図
農林水産省HPより引用



- ・就農に至るまでの段階は、成長段階と関連して、農業関心醸成期、農業教育（学習）期、就農意思決定期、青年農業者期の4段階あり（藤田,1997）、それぞれの段階における支援や対策が必要。
- ・大学・大学院（農学系）に在学中は、農業教育期にあたり、農業アルバイトや農業インターンシップなど一次産業としての農業を経験するプログラムは多くあるが、農業高校などで行われている起業家教育を大学生対象に行なっている事例は少ない。
- ・農業分野の起業家教育は、教育機関以外がコーディネートし実施する事例も少なく、農業関心期である中学生を対象に実施されている事例も少ない。

➡ 農業関心期と農業教育期の両方にアプローチし、各段階にある者が互いに学び合うモデルは構築が必要

目的

本研究の目的は、域外・居住大学生が域内・居住中学生に対し、農業の生産から販売までを行う起業家教育モデルを設計・実装することで、域外・居住大学生と域内・居住中学生が互いに学び合う状態を促すものである。

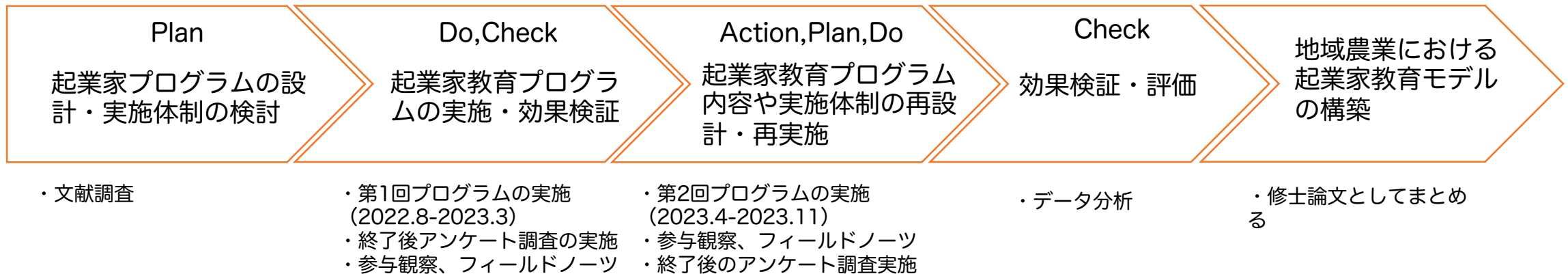
この目的を達成するため、大学生が継続的に起業家教育の企画・運営に関わることを可能にする仕組みや条件、大学生と中学生が共に学び合うことを実現するプログラム設計について検討し、実践を通じて、モデルの有効性を明らかにする。

2.研究概要

2つのリサーチクエッションと研究の流れ

RQ1: 農業分野の起業家教育の企画・運営に域外居住・大学生が継続的に関わるためには、どのような条件や仕組みが必要か？

RQ2: 域外居住・大学生が域内居住・中学生と共に学び合うためには、どのようなプログラム内容が効果的か？



2.研究概要

研究対象:域外居住・大学生

域外居住・大学生

【条件1】中学生とともに農業の生産から販売までを行うことに興味を持つ者

参加者の期待と活動内容とのミスマッチによる活動辞退者がでないよう、具体的にどのような活動を行うのかを理解した上で、活動への参加意欲を示した者とした。

【条件2】活動市町村外に住んでいる者

域外居住・大学生が農業分野の起業家教育の企画・運営に関わることを可能にするモデルの構築を目的としていることから、活動を行う市町村ではない地域に住んでいる者とした。

【条件3】実践を通じて、農業への関わり方や卒業後の農業キャリアについて考える者

本研究で構築する農業分野のコミュニティ型起業家教育モデルは、多様な形で農業に関わる若者の育成につなげることを目的とするため、プログラム参加前の興味関心は農業以外であったとしても、最終的には農業への関わり方や農業キャリアを考える者を条件とした

【条件4】活動地域の最寄駅まで公共交通機関または自家用車を用いて、自分で来ることができるもの

二つの理由により、条件3を設定した。一つ目は、コーディネータの送迎などの負担を減らすためである。二つ目は、自分で活動地域の最寄駅まで来ることができる者にすることで、コーディネーターがいなくても、大学生のみで活動を行える仕組みにすることもできるからである。

2.研究概要

研究地域：鳥取県大山町

- ・農業が基幹産業の一つであるが、農業において少子高齢化や担い手不足が課題となっている。
- ・町内に高校や大学がないことから、中学校卒業後に高校生になる子どもたちと地域との関わりが少なくなる。
→大学進学や将来を考える時期に地域と町内出身の高校生との関わりが少ない。
- ・大学がないことから、大学生と子どもたちが関わる機会が少ない。



画像引用：鳥取大山観光ガイドHP, https://tourismdaisen.com/about_daisen/access/

基本情報

- ・人口15,893人(令和3年3月1日)
- ・高齢化率38%(令和2年12月1日)
- ・水稻をはじめ野菜・果樹・畜産物などが県下有数の生産量を誇る。

大山町の代表的な農産物

白ネギ



ブロッコリー



なし



3.先行研究レビュー①

正統的周辺参加モデルの起業家教育に着目

- ・正統的周辺参加モデルは教える側である教育者が主体的に行動するモデルではなく、学ぶ側である学習者が中心となって行動し、学習が進むと捉えることから、起業家精神を育成するものとして、非常によいモデルとしている。(兼本,2016)
- ・正統的周辺参加モデルでは、学習を社会的な実践共同体への参加度合いを増すことと捉える(青木・田本,2021)。
- ・正統的周辺参加における学び合いは、他者との相互作用によるアイデンティティの発達により実現される。

学習モデル	特徴	起業家教育の方法
学習転移モデル	「学校や研修といった教育プログラム内で習得した知識・スキルをビジネス等の実務現場に転移するというモデル」であり、「知識創造」、「知識伝達」、「知識習得」、「知識応用」の4つのプロセスで学習が構成される。	・ 起業家・経営者など外部講師を招いての講演 ・ 職業調べ・起業活動の学習、経営者に関するビデオ等の視聴
経験学習モデル	Kolb (1984) が提唱した概念で、知識を受動的に覚えるのではなく、自らの経験から独自の知見を紡ぎ出すモデルである。経験・省察・概念化・実践という4サイクルのステージを踏み、このサイクルを回すことで、人は成長していくとしている。	・ 事業アイデアの検討、ビジネスプランの作成、コンテストの実施 ・ 創業経営者が経営する企業・商店の訪問、職場体験学習 ・ ケーススタディー・ビジネスゲーム
正統的周辺参加モデル	Lave and Wegener (1991) が学習を社会実践と捉えるために提唱した概念である。学習は、個人の中で起こるのではなく、実践コミュニティへの参加によって行われるもので、その中で役割とともに参加のあり方も周辺から十全に変化していく。	・ 起業体験（模擬店舗の出店体験、模擬会社の設立） ・ 企業・地域団体等との協働プロジェクト（新商品の開発体験）等

3.先行研究レビュー②

域外大学生の地域での継続的な活動を支えるコーディネート手法

・大学生の地域連携活動を持続させるためには、「段階性」と「限定性」の2つの条件を踏まえた上で、ソフト面とハード面のインフラ整備が重要（中塚・小田切,2016）。

ソフト面	・大学生と地域の双方が情報を共有できる関係性の構築 ・コーディネーターの配置 ・実践活動を行う大学生を対象とする日常的な相談体制、地域活動のメンター制度の整備 ・怪我などのトラブルに備えた保険加入を促すこと ・現地までの移動交通費を含めた活動資金の確保 ・学生それぞれの想いや興味により、グラデーションを持って地域に関わることができる設計
ハード面	農山村側でのサテライト施設、学内外の会議室や作業スペースなどの整備

表4：大学生の地域連携活動を持続させるソフト面とハード面のインフラ
中塚・小田切（2016）を参考に筆者作成

4.プログラムの設計とモデルの設計

大学生と中学生の学び合いを促すプログラム設計

・先行研究レビュー①より、大学生と中学生が共に学び合う状態を実現させるために、以下の7つのフェーズに分けてプログラム設計を行なった。。

フェーズ1:参加者同士の交流

フェーズ2:農業実習

フェーズ3:農業生産

フェーズ4:商品企画

フェーズ5:販売・決算

フェーズ6:活動の振り返り・農業への関わりの可能性について考えるワーク

フェーズ7:遊びの企画・実施

4. プログラムの設計とモデルの設計

大学生が起業家教育の企画・運営に継続的に関わるための条件抽出

・先行研究レビュー②より、条件を抽出。

条件1: プログラム内での大学生と中学生との定期的な交流の場の創出

条件2: 大学生同士の定期的な学び合いの場

条件3: 中学生以外の地域アクターとの出会い

条件4: 興味関心に沿った役割の提案

条件5: 起業家教育プログラム全体に関する情報提供

条件6: 滞在移動コストの補助

4.プログラムの設計とモデルの設計

地域農業におけるコミュニティ型起業家教育モデルの設計

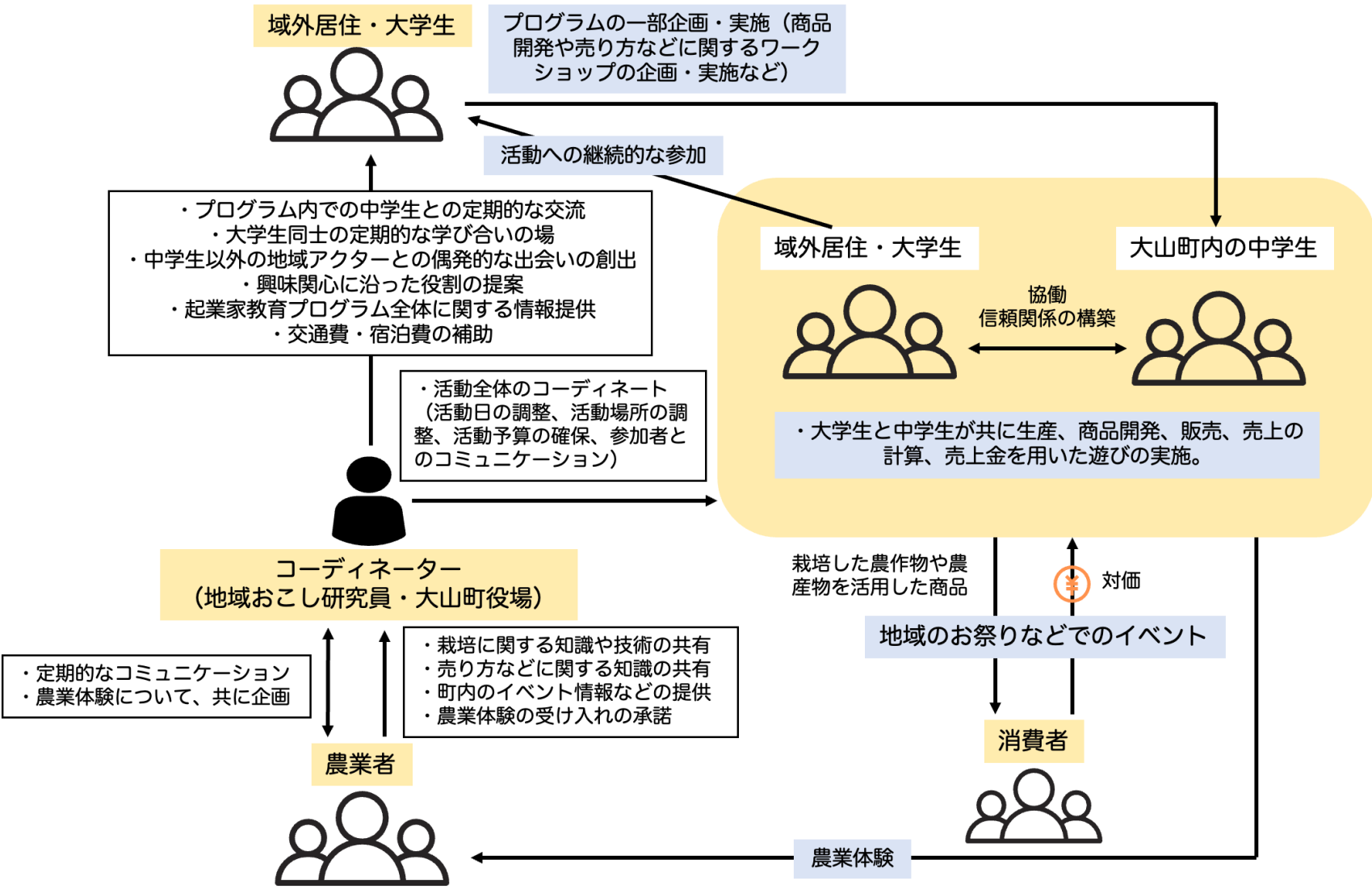
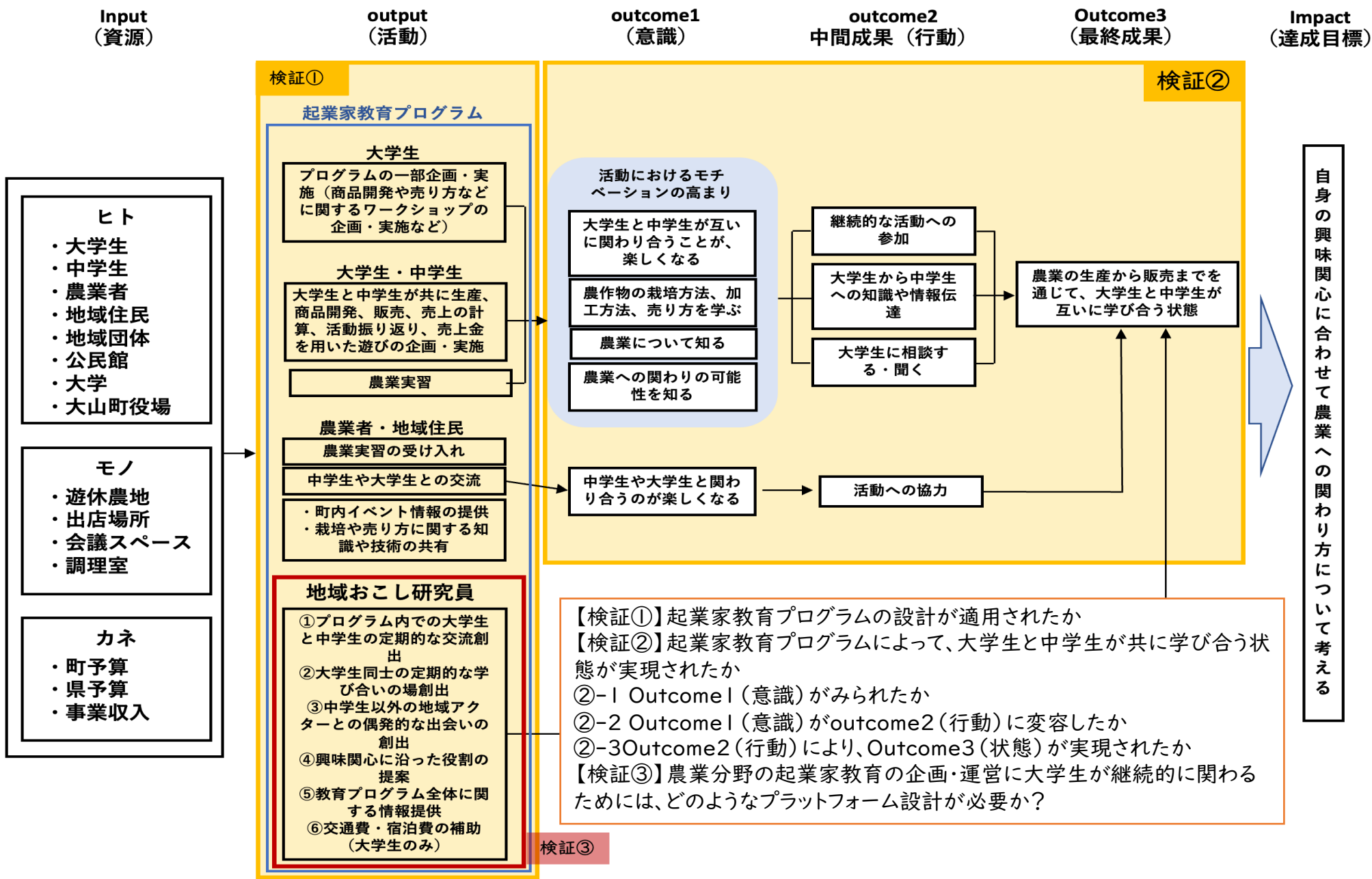


図13:本研究における農業分野のコミュニティ型起業家教育モデル (仮説)

5.ロジックモデル(仮説)と検証内容



6.第一回目プログラムの実施内容、評価・改善

【検証①】起業家教育プログラムの設計が適用されたか

フェーズ1:参加者同士の交流



フェーズ2:農業実習



フェーズ3:農業生産



フェーズ4:商品企画



フェーズ5:販売・決算



フェーズ6:活動の振り返り・農業への関わりの可能性を考える



フェーズ7:遊びの企画・実施



6.第一回目プログラムの評価・改善

【検証③】農業分野の起業家教育の企画・運営に大学生が継続的に関わるためには、どのようなプラットフォーム設計が必要か？

第一回目のプログラムでの課題

- ・コーディネーターが、大学生の興味関心に沿った役割の提案を適切に行えていなかったこと
- ・大学生と共に企画の内容を考える回数が少なく、大学生に運営側としての関わりしるをうまくつくりていなかったこと
- ・コーディネーターが企画内容を考え実施したことから、大学生に企画内容を考えてもらうことや進行を任せることがほとんどできていなく、大学生同士の学び合いの場を定期的につくりていなかったこと

大学生の継続的な活動を促すための 第二回目プログラムに向けた改善点

- ①大学生の興味関心に合わせて役割を提案する
- ②大学生同士でプログラムの企画内容を考えられる場を定期的につくる
- ③オンラインの活用

第一回目のプログラムで新たにわかったこと

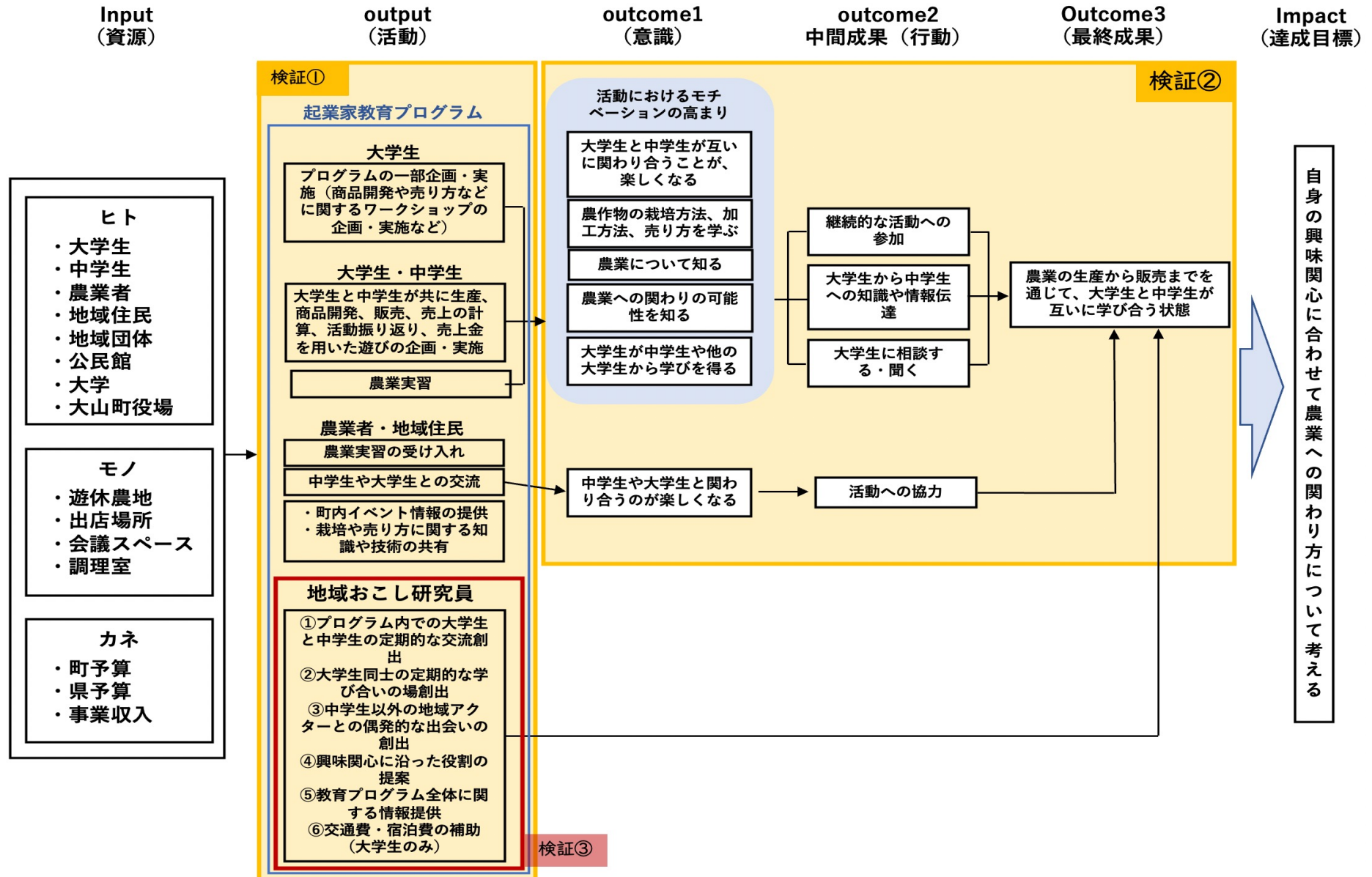
大学生が他の大学生から学びを得ていることが活動継続のモチベーションになっていたことわかった。

第二回目のプログラムでの変更点

ロジックモデルのOutcome I（意識）に「大学生が中学生や他の大学生から学びを得る」を追加。

6. 第二回目プログラムの実施内容、評価・改善

第一回目プログラムから変更したロジックモデルと検証内容



6. 第二回目プログラムの実施内容、評価・改善

【検証①】起業家教育プログラムの設計が適用されたか

フェーズ1: 参加者同士の交流



フェーズ2: 農業実習



フェーズ3: 農業生産



フェーズ4: 商品企画



フェーズ5: 販売・決算 (合計3回)



フェーズ6: 活動の振り返り・農業 への関わりの可能性を考える



6.第二回目プログラムの実施内容、評価・改善

【検証①】起業家教育プログラムの設計が適用されたか

プログラム実施中のヒアリングにより、興味関心に合わせて役割の提案を行った。

フェーズ4：商品企画

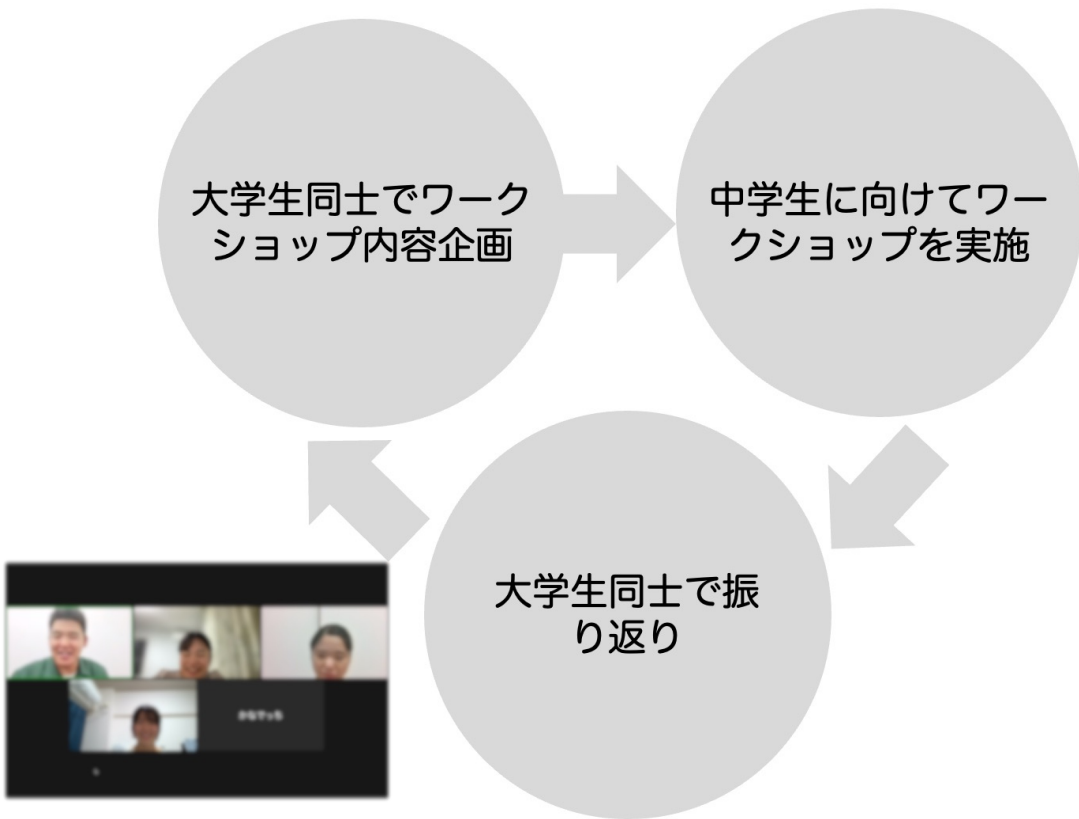


図19：大学生同士でのワークショップの企画・実施の流れ

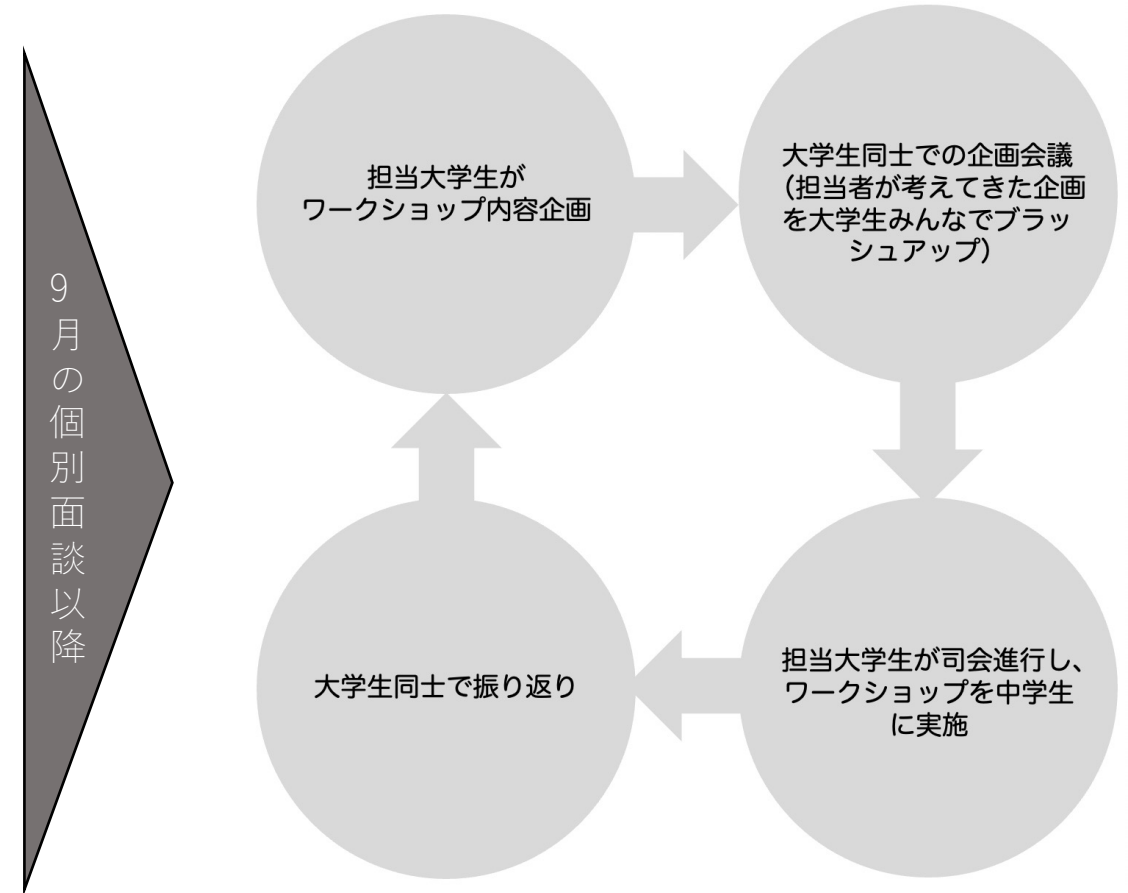


図20：大学生との個別面談後のワークショップ実施方法

地域農業におけるコミュニティ型起業家教育モデル

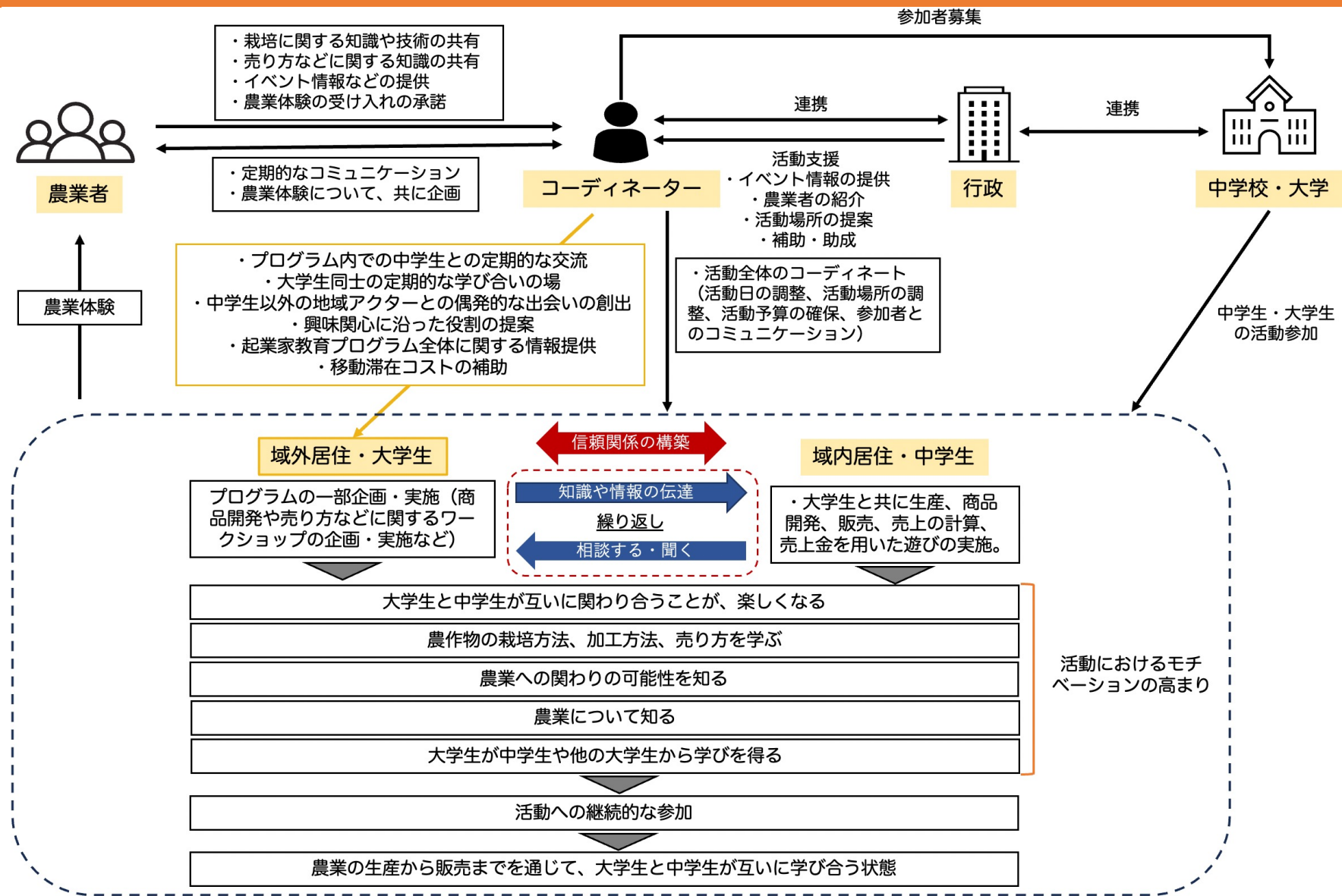


図13:本研究における農業分野のコミュニティ型起業家教育モデル